

様式4 自然災害への備えと対応

日常の備えとして、①機器の作動時間、作動方法の確認、②避難に備え、様式2の持ち出し物品をまとめておく。③自宅、避難先、避難経路のハザードマップを確認し、どのような情報が発令された時にどのように避難行動を開始するのかについて、避難のタイミングや避難先を決めておく。

危険度の高まりに応じて段階的に発表される防災気象情報の確認と取るべき行動の目安

(1) 警戒レベル1

医療機器のバッテリー等の充電や非常用電源等の作動確認を行い、□にチェックをつける。

(2) 警戒レベル2

避難時持ち出し物品の準備、確認。避難を想定し、様式2を参考に、持ち物を確認し、□にチェックを入れる。台風など大規模な災害が予想される場合は、この段階での避難開始も検討する。

① 避難経路の確認

様式1や準備しておいた地図を使用して、安全な避難経路を確認する。

② 搬送手段の確認

様式1をもとに搬送手段を記載する。避難する場合は、早めに搬送支援者・避難先に連絡し、避難できることが望ましい。気象情報をこまめに確認し、搬送支援者に出発予定時刻等を伝える。

③ 避難先への連絡

避難先は、浸水の深さ、浸水が続く時間などを考慮して決定する。

④ 避難に要する時間

搬送支援者への連絡や搬送手段も考慮したうえで、避難に要する時間も確認しておく。

(3) 警戒レベル3

避難先へ避難。風水害が予想されている場合、風雨が強くなる前に、浸水の危険性が低い場所へ早めに避難できればより安全である。避難情報を確認し、避難する。

(4) 警戒レベル4

安否の連絡。避難が完了し安全を確認したところで様式1に従って安否確認者へ連絡する。